

西九州大学 教育に関する基本方針

建学の精神	高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する。							
学園方針	(1) 建学の精神・教育理念に基づく魅力ある学びの場の構築 (2) 学生・園児一人一人の学びの成長・キャリア支援を担保する内部質保証の確立 (3) 地方創生・地域活性化を牽引する産官学の連携とそれを支える教育研究の推進 (4) 定員充足のためのブランド力強化と戦略的な募集広報活動の推進 (5) 人が学んで輝き、共感し、自走する組織づくり (6) 新時代に即応した成長戦略の推進と安定した経営基盤の強化							
教育目的	西九州大学（以下「本学」という）は、広く知識を授け人間性の高揚を図るとともに、深く生活の基本となる専門の学術を教授研究して、高度の専門知識と応用技術を開発し、社会に貢献しわが国文化の向上と人類の福祉に寄与する人物を育成することを目的とする。（学則 第1条）							
	健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科	デジタル社会共創学環
	健康栄養学科は、健康と栄養を科学的に思考し、栄養科学の実践的技能を身につけ、対象者や対象集団に合わせた栄養ケア活動を展開できる専門職を育成する。（学則 第3条の3 第1項）	社会福祉学科は、地域社会においてすべての人が、その人らしく豊かに生活できる社会の実現にむけて、社会および生活に関する諸科学を総合的に教育研究し、人間性豊かな社会福祉の専門職を養成する。（学則 第3条の3 第2項）	スポーツ健康福祉学科は、ユニバーサル社会の理解と福祉の心を基盤に、身体運動を通じた生活支援ができる専門的な知識技術と応用的能力を備えた社会人を育成する。（学則 第3条の3 第2項）	リハビリテーション学科は、障害の予防と治療を目的とした理学療法、作業療法の基礎及び臨床応用の教育研究、また、地域特性を考慮した地域リハビリテーション重視の教育研究を行うことを目的とする。（学則 第3条の3 第3項）	子ども学科は、子どもに関する学際的総合的な研究の体系化と、それを基礎とした応用的かつ実践的な教育を行い、子どもへの科学的な理解と愛情を基礎に、豊かな人間性と高度な知識技能をもって、子どもの健全な発達を支援する教育・保育の専門職業人及び広範な領域で活躍する人材の育成を目的とする。（学則 第3条の3 第4項）	心理カウンセリング学科は、人間への深い愛情と心の理解に基づき、子どもと彼らを取り巻く人々への臨床心理学的支援が行える専門職業人及び地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする。（学則 第3条の3 第4項）	看護学科は、人に対する思いやりを持ち、対象とする人々が、その人らしく地域で生きることを支えるために必要な倫理観、科学的根拠に裏付けされた専門知識と判断力を身につけ、関連職種と連携しながら看護実践ができる看護専門職を育成することを目的とする。（学則 第3条の3 第5項）	デジタル社会共創学環は、リアル（現実）とバーチャル（仮想空間）とが交錯するデジタル未来社会において、個を理解し社会を的確に把握することができる能力を基盤にして、IT の進化に対応できる能力と一人ひとりを大切にするコミュニケーション能力を活用して新しい課題に挑戦し、その解決に向けた企画・提案を行うことができ、希望に満ちた夢のある地域社会を共に作り上げる人材を育成することを目的とする。（学則 第3条の3 第6項）

目指す人間像	健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科	デジタル社会共創学環
	「倫理観」、「優しさ」、「思いやる心」といった医療人としての資質能力を備え、栄養・食生活支援を通して、人々の生活の質の向上や豊かな生活の実現に貢献できる管理栄養士	社会福祉学を基礎として、より良き福祉社会の実現に向けて、専門的知識技術と実践力、応用力を備えて行動できる人	人間性豊かで福祉の心をもち、スポーツや身体運動についての専門的な知識・技術と応用的能力を通して、すべての人の健康生活支援ができる人	保健・医療・福祉におけるリハビリテーションの研究・実践の発展に寄与し、地域の課題解決に向け地域社会と密接に連携し、広く社会に貢献できる理学療法士・作業療法士	子どもに対する理解と愛情を基盤に、その心身の発達を助長する専門的な知識技術と応用的能力を備えた社会人	豊かな人間性と確かなコミュニケーション能力を持った臨床心理の専門職業人、および専門知識と応用技術を持って社会に貢献できる人	人間性豊かで、思いやりの心をもち、科学的に裏付けられた専門的な知識と判断力を身につける。さらに、すべての人々の健康問題への支援ができ、地域社会と密接に連携し、広く社会貢献できる看護職	「あすなろう」の精神を基盤にして、持続可能な社会を目指して、地域の自然や文化を愛し、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、専門的知識・技能を駆使して、グローバル化、デジタル化、高齢化・人口減少社会等によってもたらされた新しい課題の解決に向けて挑戦する心を持ち、地域生活を支援し、創造することができる人間

入学者受入れの方針（アドミツション・ポリシー）	本学の建学の精神及び教育の理念を理解し、各学科等が掲げるディプロマ・ポリシーの人物像に成長したいと強く希望し、次の学力の三要素を身に付けているとともに入学者選抜試験に合格した人物に入学を許可する。 1.高等学校段階で求められている知識・技能を獲得していること。 2.高等学校段階で身に付けるべき思考力、判断力を備え、意見等を適切に表現できること。 3.主体的に学びに向かう態度が形成されていること。							
	健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科	デジタル社会共創学環
	健康栄養学科では、食を通じた健康づくりと疾病の予防や治療に情熱をもって取り組む管理栄養士の育成を目的とし、次のような意欲、能力、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。 ＜知識及び技能＞ 1.大学教育の修得に必要な基礎学力を備えている人、とくに理科では「化学基礎・生物基礎・化学・生物」のうち1科目以上を履修していることが望ましい。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 2.専門職としての責任を自覚し、生涯学習する意欲のある人 3.人体の構造と機能の理解をした上で、健康や疾病と食事との関係を知り、その人に必要な料理をおいしく提供したいという思いをもっている人 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 4.食を通じて、世のため、人の役に立ちたいと考えている人 5.人が好きで、相手の立場を思いやることができ、協調性のある人 6.課外活動やボランティアなどに積極的に取り組むことができる人	社会福祉学科では、多様な専門性へ開かれている社会福祉学科へ入学を希望する人には、自分を成長させ、人の役に立ちたいという意欲が高く、人や地域社会に対する興味や、世の中の出来事への関心を持つことができることを望む。またディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた人物の入学を許可する。 ＜知識及び技能＞ 1.心情豊かに伝えあうコミュニケーション力を養う「国語」、現代の社会について主体的に考え、人間としての在り方や生き方について学ぶ「公民」、思考力を伸ばし、日常生活に必要な知識と技術を修得させる「家庭（福祉領域）」の内容に興味を持って学習していること 2.保健体育、芸術や課外活動などにも積極的に取り組み、協調性や自主性を培おうとする姿勢 3.社会福祉の仕組みやあり方を学修するために必要となる基礎学力がある人 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 4.高等学校段階で身に付けるべき思考力・判断力を備え、意見等を適切に表現することができること。 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 5.主体的に社会の課題に取り組み、他の人たちと協働してその解決に向けた努力を続けることができること。	スポーツ健康福祉学科では、健康・スポーツ、福祉、教育の融合による地域に貢献する専門職業人の育成を目指し、以下のような資質・意欲を持つ学生を受け入れる。 ＜知識及び技能＞ 1.高等学校卒業相当の基礎的な学力を有し、健康・スポーツ、福祉、教育に関する学びに必要な知識や技能を身につけている人。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 2.社会的課題に対して論理的に思考し、適切に判断し、自らの考えを文章や口頭で的確に表現する力を備えている人。 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 3.地域社会や他者との関わりに関心を持ち、多様な価値観を尊重しながら、主体的に学び、協働して課題解決に取り組む姿勢を持つ人。	リハビリテーション学科では、保健・医療・福祉チームの一員として対象者や地域・社会の多様なニーズに応え、地域の課題解決に向けて活躍できる人材を育成することを目的とし、次に掲げる知識、技能、思考力、判断力、表現力等の能力を備えた人物を受け入れることを基本方針とする。 ＜知識及び技能＞ 1.高等学校で身に付けるべき基礎学力を備えていること。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 2.高等学校で身に付けるべき思考力、判断力を備えていること。 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 3.理学療法士・作業療法士を目指す明確な動機と意欲を持ち、主体的に学ぶ態度を有すること。 4.意見等を適切に表現するコミュニケーション能力を持っていること。 5.地域の人々の健康や生活に関心を持ち、理学療法士・作業療法士として社会に貢献したい人物。	子ども学科では、将来、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員及び保育士など、子どもに関わる職業に就く人材を育成することを目標としており、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた人物の入学を許可する。 ＜知識及び技能＞ 1.大学での学修や教員・保育士を目指す上での必要となる基礎学力を有していること。 2.教育・保育を学ぶ上で必要な各教科・領域等の特性に応じたな見方、考え方を働かせ、総合的に考える資質・能力を備えていること。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 3.高等学校段階で身に付けるべき思考力・判断力を備え、意見等を適切に表現することができること。 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 4.主体的に教育・保育の課題に取り組み、他の人たちと協働してその解決に向けた努力を続けることができること。	心理カウンセリング学科では、人の心や行動に関心があって、子どもや彼らを取り巻く人々たちへの心の支援にかかわる職業に就くことを強く希望するとともに、本学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる能力を備えた人物の入学を許可する。 ＜知識及び技能＞ 1.高等学校段階で求められる国語、数学、外国語、公民、保健、家庭などの知識を身に付けていること。 2.高等学校段階で求められる国語、数学、外国語などの技能を身に付けていること。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 3.高等学校段階で身に付けるべき思考力・判断力を備え、意見等を適切に表現することができること。 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 4.主体的に社会の課題に取り組み、他の人たちと協働してその解決に向けた努力を続けることができること。	看護学科では、対象となる人々が地域でその人らしく生活することを支える看護専門職を育成することを目的とし、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた人物の入学を許可する。 ＜知識及び技能＞ 1.大学教育に対応するために必要な基礎学力を備えている人 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 2.物事を探求する意欲があり、生涯に渡って学び続けたいと思う人 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 3.人々の生活と人権を尊重し、相手の立場で考えることができる人 4.人間や健康およびそれを取り巻く地域社会に関心を持った思いやりのある人	デジタル社会共創学環では、ダイバーシティに富む未来社会が求めるリアルとバーチャルを調和させる ICT 活用力や人と人を繋ぐ高いコミュニケーション力を身に付けたいと強く希望し、次の事項を充たす人物の入学を許可する。 ＜知識及び技能＞ 1.高等学校の授業を履修し、求められている知識・技能を獲得していること。 ＜思考力・判断力・表現力等＞ 2.高等学校段階で身に付けるべき思考力・判断力を備え、意見等を適切に表現することができること。 ＜主体的に多様な人たちと協働して学ぶ態度＞ 3.自己の向上に真摯に取り組むとともに、他の人たちと協働できる人間力を備えていること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	【学士課程における教育課程編成の方針】 1.本学のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、学部等の専攻にかかわる専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を培い確かな人間力を涵養するように専門教育科目と共通教育科目を配置する。 【学士課程における教育課程運営の方針】 1.学位授与方針で定めた卒業時までには獲得すべき知識・技能等がどのように育成されるかをカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー及びシラバスで明示する。 2.単位制を遵守してその上限を守るとともに、学生の主体的で活発な学修を促すために、予習・復習等の授業時間外の学修機会を活用して課題に挑戦させる。 3.学生が自己の到達度を自ら判断して必要な科目を選定し、履修計画が立てられるように授業科目の難易度等を示すナンバリングを行うとともに、必修科目と選択科目を設ける。 4.成績評価の客観性と公平さを図るために、評価の観点及び配点を予め公表する。 5.学生自らが学修の成果を自覚し、次のステップへの向上心が抱けるよう教員との面談を効果的に実施するとともにルーブリックによる自己評価結果を共有する。							
	健康栄養学科	社会福祉学科	スポーツ健康福祉学科	リハビリテーション学科	子ども学科	心理カウンセリング学科	看護学科	デジタル社会共創学環
	1.本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を培い確かな人間力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.カリキュラムの根幹は、専門基礎分野と専門分野の2分野から構成される。専門基礎分野には、専門分野を理解するための基礎科目として、社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康の分野からなる。専門分野としては、基礎栄養学と応用栄養学をベースにして、栄養士業務の基本となる栄養教育論、さらに管理栄養士の活躍分野から分類した臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論からなる。 4.2年、3年次には、栄養ケア活動の実践において地域住民にアプローチできるようにすることを目指す。そのために、「健康ゼミ（基礎1）」「健康ゼミ（基礎2）」および「健康ゼミ（展開）」を個々の科目で学修した知識を統合的に発揮できる能力を養える科目として設置する。 5.3年次後期から4年次にかけては、その実践を評価し見直し力を養うための卒業研究ゼミナールⅠ、卒業研究ゼミナールⅡ、卒業研究、卒業演習を設定する。 6.4年次前・後期に、「キャリアアップ演習Ⅰ」「キャリアアップ演習Ⅱ」を配置して、職業人としての能力の向上を目指す。 7.以上のような基本方針に基づき、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭免許、その他の資格が取得できる基礎から応用まで様々な専門科目群を準備している。 8.これらが単なる知識や技術の修得だけに終わらぬよう、実践力を養うための臨地実習などが組み込まれている。	1.本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を培い確かな人間力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.社会福祉学を中核に、社会学・法学・心理学・医学などの隣接分野の知見を活用し、対人援助に必要な知識と技術を体系的に修得できる科目を配置する。 4.社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、高校福祉科教員免許などの専門資格取得に対応した科目を設けるとともに、社会福祉の実践現場で応用可能な能力を育成する演習・実習科目を配置する。 5.地域社会の課題に対する理解を深め、理論的思考力とコミュニケーション能力を養うため、少人数制ゼミナール形式の演習科目を配置し、主体的な学びを促す教育課程を編成する。	1.本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を培い確かな人間力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.初年次教育や少人数ゼミ、現場での体験学習を通じて、倫理観と社会的責任を持ち、自律的かつ主体的に学び続ける力を育成する。 4.学外での演習・実習科目や地域連携型の社会活動を通じて、ICT活用力と協働力を高め、実践的な課題解決力を養う。 5.各種の講義・演習授業や卒業研究などを通じて、健康・スポーツ、福祉、教育に関する専門知識と技能を体系的に修得し、論理的に思考・表現する力を高め、専門的課題への対応力を育成する。 6.多様な価値観を理解し、他者と円滑に関わる力を育み、教育実習やインターシップなどを通じて実社会での柔軟な判断力と柔軟性を体験的に養う。 7.地域の健康・スポーツ、福祉、教育に関心を持ち、地域住民と協働してその解決に取り組み、地域の魅力を発信し、持続可能な地域づくりに寄与する力を育成する。	1.本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を培い確かな人間力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.学位授与方針で定めた卒業時までには獲得すべき知識・技能等がどのように育成されるかをカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー及びシラバスで明示する。 4.単位制を遵守してその上限を守るとともに、学生の主体的で活発な学修を促すために、予習・復習等の授業時間外の学習機会を活用して課題に挑戦させる。 5.学生が自己の到達度を自ら判断して必要な科目を選定し、履修計画が立てられるように授業科目の難易度等を示すナンバリングを行うとともに、必修科目と選択科目を設ける。 6.成績評価の客観性と公平さを図るために、評価の観点及び配点を予め公表する。 7.学生自らが学修の成果を自覚し、次のステップへの向上心が抱けるよう教員との面談を効果的に実施するとともにルーブリックによる自己評価結果を共有する。	1.本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.人間の発達と教育のあり方を考究する教育学と幼児期の子どもの発達と支援のあり方を考究する保育学を中核に据えつつ、心理学、福祉学などの隣接諸科学の知見を応用することにより、子どもに関する学際的、総合的な科目を配置する。 4.応用的知識および技術を習得するため、演習科目と体験学習科目を配置する。 5.自律的学習態度と問題解決力を育成するため、ゼミナール形式の演習科目を配置する。 6.子どもに対する複眼的な理解を深めるために、小学校教諭、幼稚園教諭、特別支援学校教諭及び保育士の免許・資格の取得が可能な教育課程を編成する。	1.本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.専門教育科目では、専門的能力の涵養のため次の各点において特色ある教育課程を編成する。 ・公認心理師の養成に必須となる、心理学の専門知識や技術を修得するための科目 ・子どもの発達への理解を深める科目 ・子どもをはじめあらゆる人の「表現」を媒介とする各種心理療法（芸術療法等）に関する科目 ・豊かな人間性と対人援助に必要な資質を、社会文化的な視点から多角的に磨くための科目 4.専門分野の枠を超えた関わりや学びを通して、将来の多職種連携に繋がる確かなコミュニケーションを養うため、教育課程の一部に他学科の学生との必修科目を設置する。 5.主体性をもって課題にチャレンジし、解決していく能力を身に付けるために1年次から適正なクラスサイズでの授業を実施するとともに、少人数ゼミナール形式の演習科目を設置して卒業研究に取り組める流れを創る。	1.本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を培い確かな人間力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.看護学に対する社会的要請や学問領域の特性などをふまえた「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づく科目配置とする。 4.看護学の基礎となる能力を育成する科目を配置する（GE・PR・CM・IT） 5.根拠ある質の高い看護ケアを提供できる能力を育成する科目を配置する（QS・CS・PS・IP） 6.看護学を基に地域社会の諸問題に関心を持ち、探求し続ける能力を育成する科目を配置する。（LL・RE・SO）	1.本学環のディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目を開設し、ディプロマ・ポリシーに掲げられた5つの資質・能力を効果的に獲得できるように授業科目を適切に配置した教育課程を編成する。 2.教育課程の編成にあたっては、専門の学術を教授するとともに、幅広い教養及び総合的な判断力を培い確かな人間力を涵養するように共通教育科目と専門教育科目を配置する。 3.人と人を繋ぐコミュニケーション力育成のために心理学と社会学を基盤にしたカリキュラム編成を行う。 4.課題解決力の着実な獲得のためにPBLや演習の科目を1年次から開設する。 5.ICT活用力の育成にあたっては実務家教員を登用し、社会での実践に備える。 6.英語キャンプや留学を効果的に組み込み、英語能力の向上を図る。 7.各授業ではアクティブラーニングを採用し、学生の主体的な学修を促す。 8.学生がそれぞれの能力の伸長を計画的に行えるように、必修科目と選択科目を指定し、各学年に配置する 9.学生が自己の成長を感じるとともに不足を補う際の支援となる適切な評価を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、建学の精神及び教育の理念・目標を理解し、4年間の共通教育、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い学修によって各学科が示す所定の単位を獲得するとともに次に示す資質・能力を身に付け、ディプロマ・サブリメントを完成させた人物に学位を授与する。

I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力	II.将来社会を豊かにする未来共創力	III.専門職業人としての知識・技能力	IV.社会人としての汎用力	V.地域に貢献する地域支援・創造力
社会に通用する倫理観を持ち、自己をコントロールしながら課題を自分のものとして捉え、問題解決に向けた着実な歩みができる。 （①主体性、②自律性、③実行力、④倫理性）	ICTの活用や周囲の人たちとの協力によって課題の解決に取組み、たとえ失敗してもそれを乗り越え、最終的なゴールに到達することができる。 （⑤課題解決力、⑥協調性、⑦ICT親和性、⑧レジリエンス）	学修内容を確実に身に付け、専門分野の課題を理解し、思考を巡らせて解決を図り、それを的確に表現することができる。 （⑨思考力、⑩知識力、⑪理解力、⑫表現力）	社会の多様性を受け入れるとともに、周囲の人たちの主張に耳を傾け、自説にこだわることなく状況の判断ができること。 （⑬傾聴力、⑭状況把握力、⑮多様性理解力、⑯柔軟性）	地域に興味を持ち、発展に向けた課題を見つけ、地域の人々に働きかけて協働して解決を図るとともに地域の素晴らしさを発信することができる。 （⑰地域理解力、⑱発信力、⑲課題発見力、⑳働きかける力）

健康栄養学部 健康栄養学科	大学設置基準に基づき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、そのGPA（※）値が原則2.0以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 1. 医療・福祉に関わる専門職としての倫理観を持ち主体的に考え取り組むことができる。 2. 食生活と健康との関係や環境や社会に関心を持つことができる。	II.将来社会を豊かにする未来共創力 1. 文書作成とプレゼンテーションができる。 2. ICTを活用することができる基礎的能力を身につける。 3. 他者と協調性を持つことができる。	III.専門職業人としての知識・技能力 1. 社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康についての基本となる知識を身につけ理解する。 2. 管理栄養士が栄養ケアマネジメントを行うために必要となる知識と基本的技術を身につける。	IV.社会人としての汎用力 1. 地域社会の多様性に柔軟に対応できるコミュニケーション力を身につける。	V.地域に貢献する地域支援・創造力 1. 専門的知識と技術を統合し、課題の発見と解決に向けての行動力を身につける。 2. 多職種と連携し、栄養ケアマネジメントを実践する力を身につける。 3. 管理栄養士として地域に貢献できる実践力を身につける。

健康福祉学部 社会福祉学科	大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、そのGPA（※）値が原則2.0以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 福祉課題に関心を持ち、自ら学び考える力と倫理的判断力を培い、共生社会の実現に貢献しようとする姿勢を養う。 （①主体性、②自律性、③実行力、④倫理性）	II.将来社会を豊かにする未来共創力 福祉専門職として支援関係を築く力や情報活用力、表現力とICT活用力を備え、福祉課題の解決に前向きに取り組む、協調的な行動ができる。 （⑤課題解決力、⑥協調性、⑦ICT親和性、⑧レジリエンス）	III.専門職業人としての知識・技能力 人と社会、地域、福祉に関する基礎的知識を用いて、多様な福祉課題を分析するための論理的思考力を身につけている （⑨思考力、⑩知識力、⑪理解力、⑫表現力）	IV.社会人としての汎用力 地域の多様な人々や様々な団体・機関と信頼関係を形成するためのコミュニケーション力を身につけている （⑬傾聴力、⑭状況把握力、⑮多様性理解力、⑯柔軟性）	V.地域に貢献する地域支援・創造力 地域社会の魅力や多様性を理解し、住民や当事者と連携して課題解決に挑戦し、共生社会を実現するための地域づくりを支援することができる （⑰地域理解力、⑱発信力、⑲課題発見力、⑳働きかける力）

健康福祉学部 スポーツ健康福祉学科	大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って 124 単位以上を修得し、その GPA（※）値が原則 2.0 以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 健康・スポーツ、福祉、教育に関する課題に対して倫理観を持って自律的に向き合い、主体的に学び、社会に貢献する行動を継続的に実践できる。 （①主体性、②自律性、③実行力、④倫理性）	II.将来社会を豊かにする未来共創力 ICT ツールを活用し多様な分野と協働することによって、健康・スポーツ、福祉、教育分野の課題に挑戦し、粘り強く困難を乗り越えて持続的に解決へと導くことができる。 （⑤課題解決力、⑥協調性、⑦ICT 親和性、⑧レジリエンス）	III.専門職業人としての知識・技能力 健康・スポーツ、福祉、教育に関する専門的知識を体系的に理解し、論理的に思考・表現しながら、実践的に課題解決を図る力を確実に養うことができる。 （⑨思考力、⑩知識力、⑪理解力、⑫表現力）	IV.社会人としての汎用力 多様な価値観を尊重し、他者の意見に耳を傾けながら柔軟に対応し、状況に応じた判断と円滑なコミュニケーションを安定して行うことができる。 （⑬傾聴力、⑭状況把握力、⑮多様性理解力、⑯柔軟性）	V.地域に貢献する地域支援・創造力 地域の健康・スポーツ、福祉、教育に関心を持ち、課題を発見し、地域の人々と協働してその解決に取り組むとともに、地域の魅力や価値を積極的に発信できる。 （⑰地域理解力、⑱発信力、⑲課題発見力、⑳働きかける力）
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って理学療法学専攻 124 単位、作業療法学専攻 124 単位以上を修得し、その GPA（※）値が原則 2.0 以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 1. 倫理的な判断に基づき責任ある行動をとることができる。 2. 対象者らと共感性をもって真摯な態度で接することができる。 3. 主体性や自律性をもって理学療法学あるいは作業療法学の発展や向上をめざすことができる。	II.将来社会を豊かにする未来共創力 1. 多職種と協同し、目的達成に向けて関係を構築することができる。 2. 失敗や課題を前向きに捉え、柔軟に対処することができる。 3. 情報通信技術（ICT）等を活用する基礎的能力を身につけ、課題の解決に取り組むことができる。	III.専門職業人としての知識・技能力 1. 理学療法学あるいは作業療法学に必要な専門職知識および技能を身につけることができる。 2. 課題解決に必要な情報を収集し、分析・整理して、専門的な対処行動を取ることができる。 3. 対象者を理解し、全人的・総合的かつ専門的な評価と実践ができる。	IV.社会人としての汎用力 1. 多種多様な文化や価値観を尊重し、柔軟かつ建設的に対応することができる。 2. 状況に応じて自他の意見を比較し、適切な判断と行動ができる。 3. コミュニケーション技法をもって他職種および地域社会と協業できる。	V.地域に貢献する地域支援・創造力 1. 地域の課題を拾い上げ、課題解決に向けて働きかけることができる。 2. 全ての人々の健康で文化的な生活を営むために必要な知識と方法を身につけることができる。 3. 自ら地域の課題を発見し、論理的に分析・考察して、見解を形成することができる。
子ども学部 子ども学科	大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って 124 単位以上を修得し、その GPA（※）値が原則 2.0 以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 教育・保育職の職業倫理を理解し、適切な記録と省察により自らの教育・保育を振り返り、それに基づいて評価・改善することができる。 （①主体性、②自律性、③実行力、④倫理性）	II.将来社会を豊かにする未来共創力 周囲と協力して、教材・教具の工夫や指導計画立案、教材研究、ICT 機器活用を行い、お互いに切磋琢磨しながら、教育・保育現場の今日的ニーズに対応することができる。 （⑤課題解決力、⑥協調性、⑦ICT 親和性、⑧レジリエンス）	III.専門職業人としての知識・技能力 子どもの総合的知識を基盤とした教育・保育の役割と機能、子どもの発達や特性に応じた具体的な支援の方法、および保育指針や教育・学習指導要領における各教科・領域のねらいや内容・方法を理解し、指導することができる。 （⑨思考力、⑩知識力、⑪理解力、⑫表現力）	IV.社会人としての汎用力 教育・保育において多様な他者との信頼関係を築くための働きかけを行い、教育者・保育者として自ら課題を見つけ解決し、生涯にわたり学び続けることができる。 （⑬傾聴力、⑭状況把握力、⑮多様性理解力、⑯柔軟性）	V.地域に貢献する地域支援・創造力 学校・幼稚園・保育所・認定こども園や地域社会に興味を持ち、教育・保育の発展的課題を見つけ、地域と協働で問題を解決して、地域の素晴らしさを発信することができる。 （⑰地域理解力、⑱発信力、⑲課題発見力、⑳働きかける力）

子ども学部 心理カウンセリング学科	大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って 124 単位以上を修得し、その GPA（※）値が原則 2.0 以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 人間としての良識、そして心理職としての法と倫理を理解し、自らの心身や時間を適切に管理しながら、日々の実践と反省を行うことができる。 （①主体性、②自律性、③実行力、④倫理性）	II.将来社会を豊かにする未来共創力 心理学の研究と評価に関する知識を基盤に、ICT 機器の活用や周囲の人たちとの協力によって課題の解決に取組み、例え失敗してもそれを乗り越え、最終的なゴールに到達することができる。 （⑤課題解決力、⑥協調性、⑦ICT 親和性、⑧レジリエンス）	III.専門職業人としての知識・技能力 心理職の専門性と心理支援の基本スキルに対する理解、ならびに心理学の諸領域に関する知識をもとに、心理的課題の本質を思考し、実践に移すことができる。また、その過程を適切な日本語を用いて表現することができる。 （⑨思考力、⑩知識力、⑪理解力、⑫表現力）	IV.社会人としての汎用力 傾聴の態度をもって多様性と個性を理解するとともに、周囲の状況を敏感に把握して柔軟性のある対応ができる。 （⑬傾聴力、⑭状況把握力、⑮多様性理解力、⑯柔軟性）	V.地域に貢献する地域支援・創造力 地域支援に必要なコミュニケーションや多職種協働、倫理、実務等の知識を体験的に修得し、課題の発見や解決に応用させることができる。 （⑰地域理解力、⑱発信力、⑲課題発見力、⑳働きかける力）
看護学部 看護学科	大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って 126 単位以上を修得し、その GPA（※）値が原則 2.0 以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 1. 倫理的視点に基づき、対象となる人々を尊重し擁護できる。（GE） 2. より良い看護を探索し看護実践の質向上に貢献できる。（PR・RE） 3. 主体的、自律的な学び方を身につけ、学際的な知的関心を持って看護の本質を探究できる。（LL）	II.将来社会を豊かにする未来共創力 1. ICT を活用し、看護職として必要な基礎知識を修得できる。（IT） 2. 社会の一員として ICT を身につけ、多様な情報を活用し管理できる。（IT） 3. ICT の活用により、より快適な生活に向けた支援や健康を促進できる。（IT・LL）	III.専門職業人としての知識・技能力 1. ライフサイクルや健康状態に応じた多様な人々の看護に必要な知識・技能を修得し、根拠に基づく質の高い看護を実践できる（CS） 2. 看護の質の維持と向上をめざし、ケア提供に対する説明責任と対象者のリスクが最小限となるよう行動できる（QS） 3. 看護職として問題解決するための専門的知識を活用し、課題を解決できる。（PS）	IV.社会人としての汎用力 1. 看護職として家族を含む対象の多様な背景を理解し、良好な関係を構築できる。（IP・CM） 2. 保健・医療・福祉・教育分野にかかわるすべての人々の役割を理解し、良好な関係を築くことができる。（IP・CM） 3. 保健・医療・福祉・教育分野における課題を共有し、かかわる人々と連携・協働できる。（IP・CM）	V.地域に貢献する地域支援・創造力 1. 看護職としての社会的位置づけを理解し、看護学の発展に寄与する姿勢を身につけている（SO） 2. 地域包括ケアシステムを理解し、人々の健康と生活を支援できる。（SO） 3. 医療・福祉・健康・教育分野における健康予防および増進に向けて、地域の特性や社会資源を活用できる能力を身につけている。（SO・IP）
デジタル社会共創環境	大学設置基準に基づき、本学が定める履修要件に沿って 125 単位以上を修得し、その GPA（※）値が原則 2.0 以上であって、以下の観点別能力を身につけるとともにディプロマ・サブリメントを完成させた者に卒業を認定し、学位を授与する。 ・ダイバーシティに富んだ社会にあって、自らをコントロールし、他の人たちとも協働して主体的に学び、新しい課題に挑戦することができる。（人間力） ・情報の収集や分析の結果を、IT等を用いて的確に表現し、課題解決に向けた展望を具体的に示すことができる。（企画・提案力） ・深い人間理解と的確な社会理解をもとに、多様な価値を認め、共に生活する中で社会の発展に貢献することができる。（共生力） ・留学やインターンシップ等の経験で培ったグローバルな視野での探究をもとに、地域の発展に向けた課題解決に貢献することができる。（地域支援・創造力）				
	I.主体的・自律的に行動できる確かな人間力 社会に通用する倫理観を持ち、自己をコントロールしながら課題を自分のものとして捉え、問題解決に向けた着実な歩みができる。 （①主体性、②自律性、③実行力、④倫理性）	II.将来社会を豊かにする未来共創力 ICT の活用や周囲の人たちとの協力によって課題の解決に取組み、例え失敗してもそれを乗り越え、最終的なゴールに到達することができる。 （⑤課題解決力、⑥協調性、⑦ICT 親和性、⑧レジリエンス）	III.専門職業人としての知識・技能力 学修内容を確実に身に付け、専門分野の課題を理解し、思考を巡らせて解決を図り、それを的確に表現することができる。 （⑨思考力、⑩知識力、⑪理解力、⑫表現力）	IV.社会人としての汎用力 社会の多様性を受け入れるとともに、周囲の人たちの主張に耳を傾け、自説にこだわることなく状況の判断ができること。 （⑬傾聴力、⑭状況把握力、⑮多様性理解力、⑯柔軟性）	V.地域に貢献する地域支援・創造力 地域に興味を持ち、発展に向けた課題を見つけ、地域の人々に働きかけて協働して解決を図るとともに地域の素晴らしさを発信することができる。 （⑰地域理解力、⑱発信力、⑲課題発見力、⑳働きかける力）